

2 社会

(1) 第1学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・ 授業評価アンケートでは、「この教科に対して興味・関心がありますか」の質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が多く、多数の生徒が学習に前向きに取り組んでいる。
- ・ 板書事項に付け加えをしたり、ノートを工夫できる生徒もたくさんいる。
- ・ 知識の定着に比べて、資料活用能力や思考・判断力に弱さがある。考えて自分で答えを出すことを苦手とする生徒が少なくない。

イ 学力の状況

1年生の社会科の学力については、以下のような傾向が見られる。

- ・ 地名や歴史用語などの基本的事項を覚えて、正確に漢字で表記することができていない生徒も一部に見られる。
- ・ 社会科に対して興味・関心をもち、授業態度も良好である。また、発問に対しても積極的に答えようとする生徒が多い。しかし、自分の考えや意見を十分に表現することができない面がある。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 歴史資料などの読み取り、時代背景を考えることなど、資料の活用や考える力を伸ばす課題に取り組む。
- ・ 学習内容を理解し、表現できるように、繰り返して学習する。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 毎時間、学習内容を精選し、設問、板書内容や授業プリントを工夫改善する。
- ・ 資料活用能力を高めるための課題や「思考・判断・表現」の能力を伸ばすため、自分の考えをまとめる時間を確保して継続する。

③ 授業改善案

ア 言語活動を取り入れた授業への取組

- ・ 資料を見てわかったことを文章にまとめたり、まとめたことを発表したりする活動を多く取り入れ、言語活動を意識した授業を行う。
- ・ 言語活動を意識した授業プリントの工夫をする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取り組み。

- ・ 学習目標を視覚化し、指示を明確に行う。
- ・ 机間指導をしながら、個別指導を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 課題プリントやワークブックの点検を通して、日常的な学習への刺激を与える。

エ DVD映像やデジタル教科書など I C T機器を取り入れた授業への取組みを進める。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

- ・ 授業評価によると、学習に前向きに取り組む生徒が多い。ほとんどの生徒は授業中のノート作りを熱心におこなう。しかし黒板を写すことで満足してしまい、授業のポイントをつかめていない生徒も少なくない。
- ・ 資料を使った学習にも多くの生徒が真剣に取り組んでいる。しかし資料を理解し活用することを苦手とする生徒も少なからずいる。
- ・ 資料問題や教員の発問に対して、自ら考え、意見を発表することを苦手とする生徒が多い。授業が受け身の態度（答えを待っている）の生徒が見られる。

イ 学力の状況

本校の現2年生の社会科の学力については、以下のような傾向が見られる

- ・ 「関心・意欲・態度」「資料活用」の観点ではおおむね満足できる生徒が多い。
- ・ 「思考・判断・表現」の観点の能力に課題がある。何が問題なのか、問題点を理解する、問題文を読み取る力が足りない。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 課題の意図や背景、理由を理解する。
- ・ 学習課題を理解したら、自分で考え、理解したことを定着できるまで「繰り返し」学習をする。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 学習内容や課題を記入するワークシートを用意し、自分で考える習慣をつける。
- ・ 「思考・判断・表現」能力をのばすため、問いかけを増やし、発言の機会を多くする。“課題の理解→考える→発言する”の流れを作る。

③ 授業改善案

ア 言語活動を取り入れた授業

- ・ 資料を見てわかったことを「文章にまとめる」、「まとめたことを発表する」場面を作り、言語活動を意識した授業を行う。こうした活動を意識した授業を工夫する。

イ 特別支援の視点を取り入れた授業

- ・ 学習目標（何がポイントか）を示し、学習活動の指示を明確に行う。
- ・ 理解できていない生徒には個別に指導する。
- ・ 教員の立ち位置や問いかけ内容を変えながら、個別指導を行う。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 課題プリントやワークブックを使って、指導内容を厳選し繰り返す。
- ・ 授業に時間の余裕を持たせるため家庭学習部分を増やす。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析および学力の状況

3年生の学習状況について、授業評価アンケートや定期考査から以下のような特徴が見られた。

- ・ 授業評価アンケートの回答では、すべての質問項目に対して「そう思う」もしくは「どちらかというと思う」の肯定的な回答した生徒が90%を超えており、生徒にとって概ね納得できる授業になっていると考えている。
- ・ 基本的事項習得のための反復練習に熱心に取り組んでいる生徒が多数おり、学力の底上げが進んでいる。
- ・ 一方、家庭学習を含めた、自主学習の習慣がまだ確立していない生徒が一部おり、定期考査における得点分布でも特に低い層に一定の割合が存在する。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 繰り返し学習することの重要性を理解させ、引き続き基本事項の定着の徹底を図るとともに、文章表現力を中心とする言語活動の力を高める。
- ・ 年表や図、グラフに加え、教科書本文などの資料を正確に読み取る力、またそれらを活用する力を伸ばす学習をより進める。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 定着すべき基本事項を明確にした課題を設定する。また、出題範囲を明確にした小テストを行うとともに、定期考査にも繰り返し出題し、小平市で取り組む「らせん的に続く教育」を実現する。
- ・ 授業プリントの作成においては、資料活用能力を付けるための課題や、それらの解釈や説明、論述などの言語活動を一層充実する内容となるよう留意する。
- ・ 特別な支援が必要な生徒への個別の配慮を意識的に行う。

③ 授業改善案

ア 基礎・基本事項の定着を重視した授業

- ・ 定着すべき基本事項を明確化するとともに、定期的な小テストの実施や定期考査への出題を行い、繰り返しの学習による基本事項の定着を実現する。

イ 資料の読み取り、活用を重視した授業

- ・ 意識的に諸資料から有用な情報を適切に選択し、それら効果的に活用する授業構成とする。

ウ 言語活動を重視した授業

- ・ 話し合い活動を重視するとともに、記述による言語活動を重視した授業プリントを用いて授業を構成する。

エ パソコンと大型テレビによる教材提示など I C T機器を取り入れた授業

- ・ 各種DVDや10min. ボックスなどの視聴覚教材やデジタル教科書を効果的に活用する。

オ 家庭学習の定着

- ・ 授業プリントを事前に配布し、事前に予習をして授業に臨む習慣を身に付けさせる。